

令和5年度東京都スポーツ少年団大会

【軟式野球実施要項】

1. 期 日
- ① 令和5年11月5日(日) 小学生
 - ② 令和5年11月未定 小学生
 - ③ 令和5年11月未定 小学生
 - ④ 令和5年10月29日(日) 中学生
 - ⑤ 令和5年11月5日(日) 中学生

※詳細は、代表者会議で決定する。

2. 会 場
- ① 十条富士見中学校(北区十条台1-9-33)
 - ②③ 新荒川大橋野球場(北区赤羽3-29先)
 - ③④ 大田区多摩川緑地野球場1号面(大田区西六郷四丁目地先)

3. 協 賛 ナガセケンコー株式会社 【物品協賛(公認球 M球 J級)】

4. 代表者会議について

令和5年10月17日(火) 18:45から 東京体育館「第一会議室」
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷1-17-1

※ 代表者会議には、参加チームの責任者等が必ず参加してください。

5. 競技規則及び方法

- (1) 「令和5年公認野球規則」、全日本軟式野球連盟の競技者必携「競技運営に関する連盟の取り決め事項」及び「競技に関する連盟特別規則」を適用する。
- (2) ボールは、全日本軟式野球連盟公認の「ナガセケンコー中学生M号・小学生J号」とする。
- (3) バットは、全日本軟式野球連盟公認の「JSBB」マーク入りのものに限る。
- (4) スパイクは、金属製金具を禁止する。但し、中学生は除く。
- (5) 捕手の防具は、全日本軟式野球連盟公認のマスク(安全帯スロートガード付)・レガース・ヘルメット・プロテクター及びファールカップを着用すること。シートノック時の控え捕手も義務づける。
- (6) 打者・次打者・走者・ベースコーチは全日本軟式野球連盟公認の「JSBB」マーク入りの両耳フラップヘルメットを必ず着用すること。
- (7) ポークについて、中学生、小学生高学年は1度目から採用し、小学生低学年はノーカウントとし、指導者に注意を与える。

6. 競技運営に関する取り決め事項

- (1) 審判経験のある審判員を1名以上の帯同を条件とする。
代表者会議の抽選にて、第1・第3試合の団の帯同審判は残りの審判を、第2・第4試合の帯同審判は先審判でお願いします。
なお、第2試合の帯同審判は8時30分に、第4試合の帯同審判は第3試合の試合開始時間の30分前に集合願います。
※ 審判員は極力本大会の代表指導者及び指導者ではない方をお願いいたします。
※ 審判服、審判帽等の審判用具は普段地元でお使いの物をご用意願います。
- (2) ベンチに入れる人員は、試合前の練習、試合中ともに下記のとおりとする。
 - ① 引率責任者は、私服(運動の出来る服装)とし、登録指導者、役員・スタッフとする。
 - ② 代表指導者(監督)は、団員(選手)と同一ユニフォームで背番号30番とし、登録有資格指導者(認定員または認定育成員(理念「O」))に限る。
 - ③ 指導者(コーチ)は、団員(選手)と同一ユニフォーム2名以内で背番号29・28番とし、登録有資格指導者(認定員または認定育成員(理念「O」))に限る。

- ④ スコアラーは、私服（運動の出来る服装、チーム帽子は着用）とし、登録指導者・役員・スタッフとする。
- ⑤ 団員（選手）は、9名以上20名以内で背番号0番から99番までとし、代表団員（主将）は、背番号10番とする。なお、団員登録している者に限る。（28、29、30番は除く）
- ⑥ 健康管理スタッフは、私服（運動の出来る服装）とし、事前に大会本部へ申請を行った場合のみ、指導者を除く団員保護者2名以内のベンチ入りを認める。
- ※ ②③は、指導者登録章を右袖（安全ピン止め可）、⑤は、団員登録章を右袖に縫い付けること。
- ※ 引率指導者、スコアラー、健康管理スタッフが、代表指導者並びに指導者と同等に選手に指示を与えたり、声援や応援行為を行った場合は退場が命じられる場合がある。
- ⑦ 投球数管理者1名を選任。チームスタッフ、父母でも可。応援、声援行為は不可。
- (3) ベンチは組合せ番号の若い方を1塁側とする。
- (4) メンバー表の提出及び攻守の決定は、第一試合のチームは試合開始30分前に大会本部に提出し、両チームの監督・主将が来てジャンケンで行う。第二試合以降のチームは前の試合開始40分経過後もしくは4回終了時に大会本部にて上記同様に行う。
- (5) 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始時刻を早める場合がある。
- (6) 試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (7) 次の試合の投手のピッチング練習は、メンバー表を提出し攻守を決めた後ブルペン（軟式野球場では、指定された場所）での投球練習はできるが、進行中の試合チームのピッチング練習を妨げてはならない。なお、先発バッテリーのみの入場とし、捕手はマスク・レガース・ヘルメット・プロテクター・ファールカップを着用すること。特に投球練習時はマスクの着用を義務とする。なお、監督、コーチ、その他の者の入場は認めない。ただし、前試合終了後は、その限りではない。
- (8) ノッカーは代表者指導者（監督）か指導者（コーチ）でなければならない。なお、大会運営上行われぬ場合がある。
- (9) ベンチ内での携帯電話、携帯マイクの使用を禁止する。ただし、代表指導者（監督）1名並びに指導者（コーチ）2名の3者の内1名に限りメガホン1個のみ使用を認める。
- (10) 試合のスピード化に関する事項
 - ① 試合の進行によっては、タイムを制限することもある。
 - ② 投手の準備投球数は、初回7球、交代時5球、その他は3球以内とする。なお、捕手はマスクの着用を義務とする。
 - ③ 攻守交代は駆け足で行うこと。投手に限り歩いても差し支えない。また、監督のマウンドへの行き帰りは小走りで行うこと。
 - ④ 投手は必ず投手板について捕手のサインを見ること。
 - ⑤ 次打者は、必ず次打者席に入り低い姿勢で待つこと。なお、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。
 - ⑥ 打者はみだりにバッターボックスを外さないこと。サインもボックス内でみること。
 - ⑦ 内野手間のボール回しは全ての回で無しとする。
 - ⑧ 守備が終わり、最後のボール保持者は、必ずマウンドにボールを置いてベンチに戻ることに。
 - ⑨ ランナーから帰ったとき等、捕手の防具付けはベンチ前で行い、手伝ってくれる選手を含め速やかに行う。
- (11) その他
 - ① ファウルボールの処理については、1塁側は、1塁側ベンチの選手、3塁側は3塁側ベンチの選手、バックネット側については、攻撃側の選手が行い。速やかに球審にボールを戻すこと。
 - ② 本大会出場予定チームは、各地区の大会参加等で日程が重複する場合は、各ブロックにて他のチームを推薦すること。ただし、代表者会議以後の変更は認めない。
 - ③ 本大会出場チームが途中棄権をした場合、そのチーム及び所属する地区からの次年

- 度大会の出場を停止する場合がある。
- ④ 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な場合は試合を行うことがある。
 - ⑤ 雨天の際の連絡等について
 - ア. 当日決められた時間以降に団代表 1 名が下記に問い合わせる。
 - イ. 当日の 1 試合目のチームに、会場へ向かうことを要請することがある。
- ※ 問い合わせ先 AM8:00 以降 野球部会長：森 勝史 090-3697-4091

7. 雨天による大会運営

- (1) 大会初日
 - ① 代表者会議で決定した、試合時間・組合せ日程で行う。ただし、雨天等で時間を繰り下げる場合がある。
 - ② 初日予定している試合が、雨天等で中止となった場合は、中止となった試合を大会 2 日目の第一試合として順延する。
- (2) 大会 2 日目
 - ① 2 日目の試合の消化具合によっては試合イニングの変更、試合時間の短縮等を行い、準決勝戦まで試合を行う。
- (3) 予備日
 - ① 2 日目の試合の消化具合によっては試合イニングの変更、試合時間の短縮等を行い、決勝戦まで試合を行う。
 - ② 初日、2 日目とも天候により中止となった場合は、試合イニングの変更、試合時間の短縮等を行い、準決勝戦まで試合を行う。
 - ③ 3 日間とも天候により中止となった場合は、8 団の代表者は所定の場所に集まり、翌年の 2 回選出ブロック決めの抽選を行う。

8. 競技に関する特別規則

- (1) 本大会の試合イニングは原則として、中学生は 7 回戦、小学生高学年は 6 回戦、小学生低学年は 5 回戦とする。
- (2) 試合の成立は、中学生、小学生高学年 5 回終了以降、小学生低学年は 3 回終了以降とする。
- (3) 試合イニングについては、中学生 7 回、小学生高学年は 6 回を原則とするが、90 分の試合制限時間を採用して行う。90 分を経過した後は新しいイニングに入らず、そのイニングをもって勝敗を決定する。
なお、小学生低学年は 5 回とし、80 分の試合時間を採用して行う。80 分を経過した後は新しいイニングに入らず、そのイニングをもって勝敗を決定する。
- (4) 本大会において、中学生 7 回、小学生高学年は 6 回を試合時間 90 分以内で同点となった場合、小学生低学年は 5 回を 80 分以内で同点になった場合、次のイニングから「タイゲーム」に入る。タイゲームは、継続打順とし前回の最終打者を 1 塁走者、2 塁、3 塁走者は順次前の打者として、無死満塁の状態にして 1 イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- (5) タイゲームは最大 2 イニングとする。タイゲームの 1 イニング目で決着がつかず、かつ中学生、小学生高学年が試合時間 90 分以内に限り、小学生低学年が試合時間 80 分以内に限り、2 イニング目を行う。なお、1 イニング目が終了した時点で試合時間の 90 分（80 分）が経過し勝敗が決しなかった場合、および 2 イニングを行っても勝敗を決しない場合は、「全日本軟式野球連盟競技者必携」記載の抽選、審判員および試合終了時に出場していた両チームのメンバーが終了あいさつの状態に整列し、抽選用紙に○印・×印、各 9 枚記入したものを封筒に入れ、先行チームより 1 枚ずつ交互に選び、○印の多いチームを抽選勝ちとする。
- (6) 5 回終了前に降雨、日没等で試合続行が困難になった場合は、継続試合・大会中止の判断は本部の指示によるものとする。
 - ① 継続試合とは、その日の最終試合が続行できず、大会 2 日目の第 1 試合に先立って 試合を継続すること。
 - ② 大会中止とは、予定している日程で大会が行えなくなった場合のこと。

- (7) 得点のコールドゲームは、中学生、小学生高学年は4回終了時 10 点差、5回終了以降7点差とする。小学生低学年は3回終了時 10 点差、4回以降7点差とする。
- (8) 抗議のできる者は代表指導者（監督）または、当該プレイヤーとする。
- (9) 代表指導者（監督）が投手のところへ行く回数の制限
 - ① 代表指導者（監督）が1イニングに同一投手のところへ2度行くか、行ったとみなされる場合、投手は自動的に交代しなければならない。交代した投手が、他の守備位置につくことは許されるが、同一イニングに再び投手には戻れない。
 - ② 捕手または内野手が、1試合に投手のところに行ける回数を3度以内とする。ただし、指導者（監督）と共に行った場合は除く。タイゲームとなった場合は、2イニングに1度行くことができる。
- (10) 試合のスピードアップを図るため、団員（選手）が負傷し治療が長引く場合は、相手の了解を得て、臨時代走（コーティーシーランナー）を認める。この場合は試合に出ている9人の中から投手を除いた最も打順の遠い団員（選手）を認める。

9. 補則

- (1) メンバー変更は、メンバー表提出時まで認める。その後の変更は認めない。
- (2) 同一チームの代表指導者（監督）、指導者（コーチ）、団員（選手）の服装は次のものでなくてはならない。
 - ① ユニフォーム、帽子、アンダーシャツ、ストッキングは、同一色とし、ベルトは、メーカー名を問わず同色、スパイクはメーカー名を問わず同色が望ましい。
 - ② エクストラロングスタイルのパンツ（ズボン）の着用は禁止する。ただし、ストッキングが見える場合は着用を認める。
- (3) 上記（2）①②に違反している代表指導者、指導者、団員のベンチ入りは認めない。
- (4) 投手1日の投球制限
 - ① 中学生は 100 球または7イニングが達した時点。
 - ② 小学生高学年は 70 球または6イニングが先に達した時点。
 - ③ 小学生低学年は 60 球または5イニングが先に達した時点。
 - ④ ダブルヘッダー時も採用し、第1試合での残球数または残イニングまで投球できる。
 - ⑤ 100 球、70 球、60 球に達した打者に対しては、その打者の攻撃が完了するまで投球できる。
 - ⑥ 宣言四球を認める。
 - ⑦ 投球に関して、投球を完了してしまったボークは投球としてカウントする。小学生低学年も投球を完了してしまったノーカウント球も投球としてカウントする。
 - ⑧ 投球数の管理は両チーム選出員とし、本部審判員が確認を行う。抗議は認めない。
- (5) 団員のスポーツ傷害、健康管理に十分注意すること。
- (6) グラウンドルールは、担当審判員が各試合前に説明する。
- (7) 試合に勝ったチームは、試合後グラウンド整備を行うこと。
- (8) 大会開催中は、本部席に看護師が常駐しているため、団員（選手）、指導者（監督・コーチ）、保護者方に負傷・急病が発生した場合は、個々で対応せずに速やかに本部席まで報告すること。

10. その他

本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、大会本部並びに野球部会で協議の上、決定する。

11. 連絡先・申込先

東京都スポーツ少年団指導者協議会 野球部会長 森 勝史 TEL 090-3697-4091
E-Mail southern-cross.914@ab.auone-net.jp